11　品目別調査結果　ヒラメ

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識

1. 概況

1．各取引段階の“量”の変化

出荷段階

- 福島県産ヒラメの漁獲量は、震災後の操業自粛により漁獲がない状態で推移したが、令和３年度は平成22年度の68.1%まで回復している。
- 漁獲量のシェアは、震災後に茨城県や千葉県を下回るようになったが、平成30年度以降は２県を上回った。

卸売段階

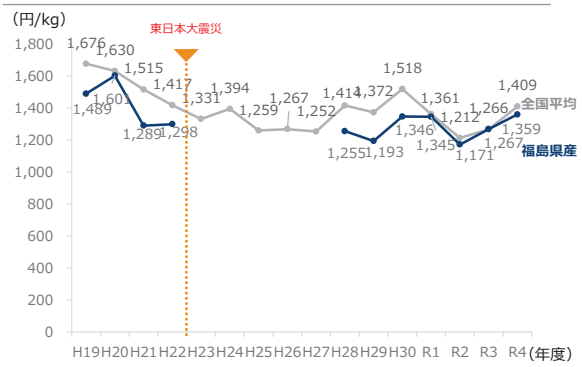
- 首都圏の市場、特に東京都中央卸売市場では、年間を通して福島県のヒラメが流通している状況であった。
- 東京都中央卸売市場の10月の福島県産ヒラメのシェアは、平成28年の試験操業開始後拡大し、平成30年には平成21年のシェアを上回り、その後横ばいに推移している。

2. 各取引段階の“価格”の変化

市場における状況

- 東京都中央卸売市場での福島県産ヒラメの取引価格は、試験操業で出荷が再開された平成28年度以降、概ね平成22年度より高い価格水準で推移している。
- 全国平均価格との価格差は回復しており、令和３年度は震災以降で初めて全国平均単価を上回ったが、令和4年度は再び全国平均単価を下回った。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移

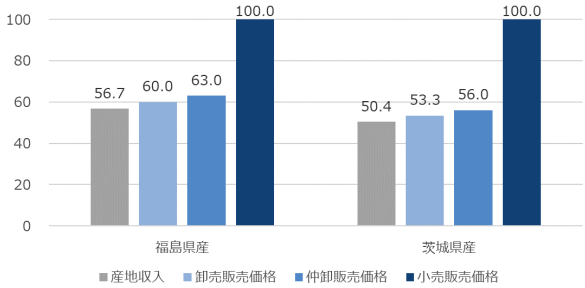


※令和4年度は、令和4年12月までの実績を使用。
※データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

個別事例における状況

- 福島県産と他県産を併売している小売業とその納入先から価格を入手した。
- この事例で福島県産と茨城県産の価格形成を比較すると、小売価格に対する産地収入の比率は茨城県産よりも福島県産の方が高いものの、大きな差異は見られなかった。

ヒラメの価格形成事例



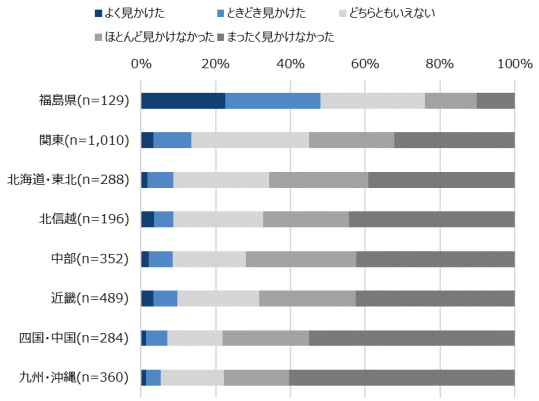
※数値はそれぞれの調査時点で、小売価格を100とした指数。

3. 福島県産品に対する認識

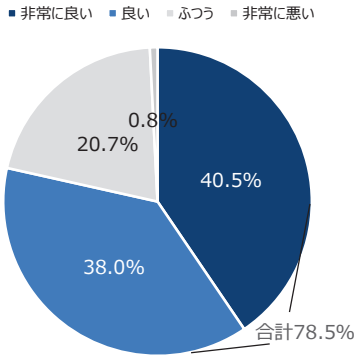
消費者の反応

- 福島県産ヒラメを店頭でよく見かけた人の割合は、福島県が高く、他の地域では５%に満たない。
  - ➢ 福島県産ヒラメを買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では2.2%であった。
- 福島県産ヒラメの購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が78.5%であった。

福島県産ヒラメを店頭で見たか



福島県産ヒラメ購買者の評価（n=121）



2. 調査実施概要

調査の全体像

概要調査として行政機関の統計データ等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	• 統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。 • 市場での動向については、競合県産品との比較分析を行う。	• 消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握する。	• 訪問面接により取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、事例を分析する。 • 競合県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。
調査対象	• 行政機関の統計データ。 • 卸売市場データ。	• 全国の消費者。（5,500人）	• 小売業に流通するヒラメ。 • 福島県産以外に他県産も扱う事業者を対象に含める。
調査内容	• 福島県産ヒラメの出荷量。 • 卸売市場における取扱量と、競合県産品と比較したシェアの推移。 • 卸売市場における取引価格の競合県産品との比較。	• 福島県産ヒラメの視認経験。 • 福島県産ヒラメの購買経験。 • ヒラメ購買時の重視点。 • 福島県産ヒラメの評価。	• 流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。
各節との対応	**各取引段階の“量”の変化** **各取引段階の“価格”の変化**	**福島県産品に対する認識**	**各取引段階の“価格”の変化**

各データを入手・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査と追跡調査については、独自に情報を収集した。

概要調査使用データ	• 農林水産省「漁業・養殖業生産統計」。 • 首都圏・関西圏・名古屋・札幌の各市場の統計データ。
アンケート調査	• 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。 ➢ 5,500件を回収し、分析を実施した。
追跡調査	• 首都圏の小売業へ流通するルート：１ルート。 ➢ このルートでは競合産地産の価格も収集。 • 福島県内の小売業へ流通するルート：２ルート。 ➢ うち１ルートは競合産地産の価格も収集。

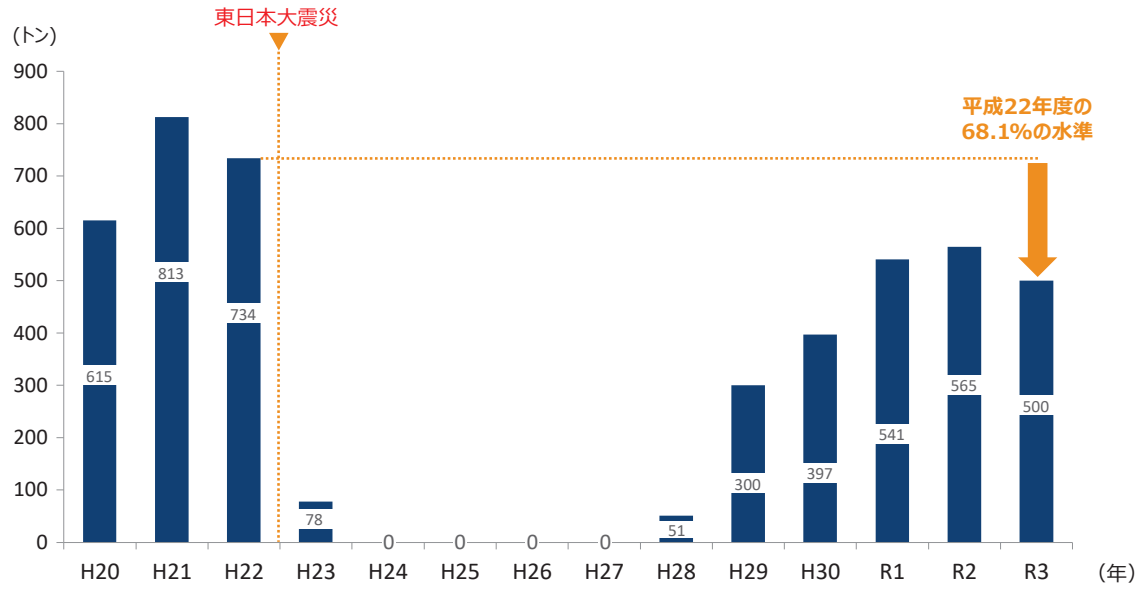
※追跡調査は個社が特定できないようにするとともに、実額を非公表とすることを前提に一部事業者から販売データを受領。

3. 流通経路の変化

福島県産ヒラメの漁獲量の推移

福島県におけるヒラメの漁獲量は、震災直後大幅に減少した後、漁獲がない状態で推移したが、令和3年は平成22年の68.1%まで回復している。

福島県におけるヒラメの漁獲量の推移

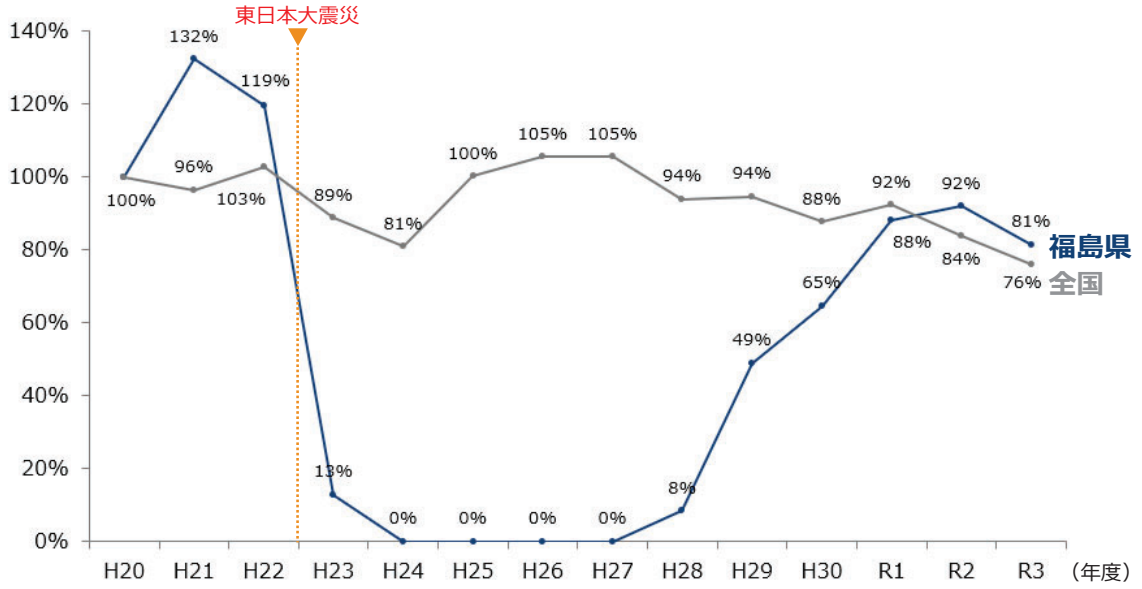


データ出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

福島県産ヒラメの漁獲量の推移

福島県におけるヒラメの漁獲量は、震災後の平成23年度から大幅に減少し、その後漁獲がない状態で推移していたが、令和3年度には平成20年度の81%程度まで回復してきている。

全国と福島県におけるヒラメの漁獲量の推移（平成20年度を100%とした値）

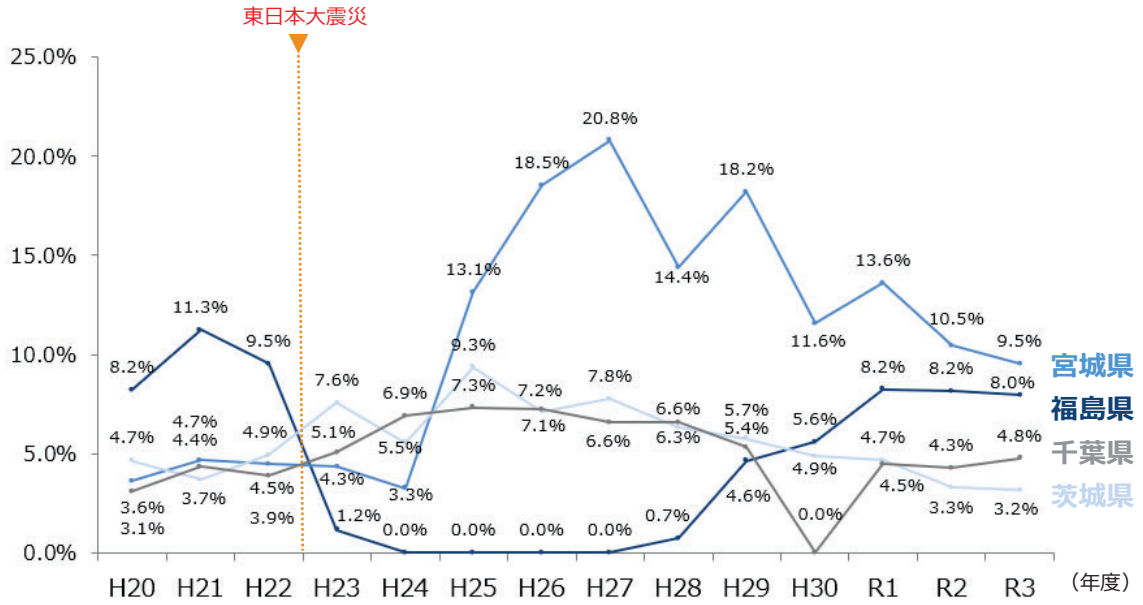


データ出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

福島県・宮城県・茨城県・千葉県の4県におけるヒラメ漁獲量のシェアの推移

福島県・宮城県・茨城県・千葉県の4県の漁獲量において、震災前に10%前後であった福島県産ヒラメのシェアは、震災後に茨城県や千葉県を下回るようになったが、平成30年度に再び上回り、令和3年度は8.0%まで上昇している。

福島県・宮城県・茨城県・千葉県の4県におけるヒラメ漁獲量のシェアの推移

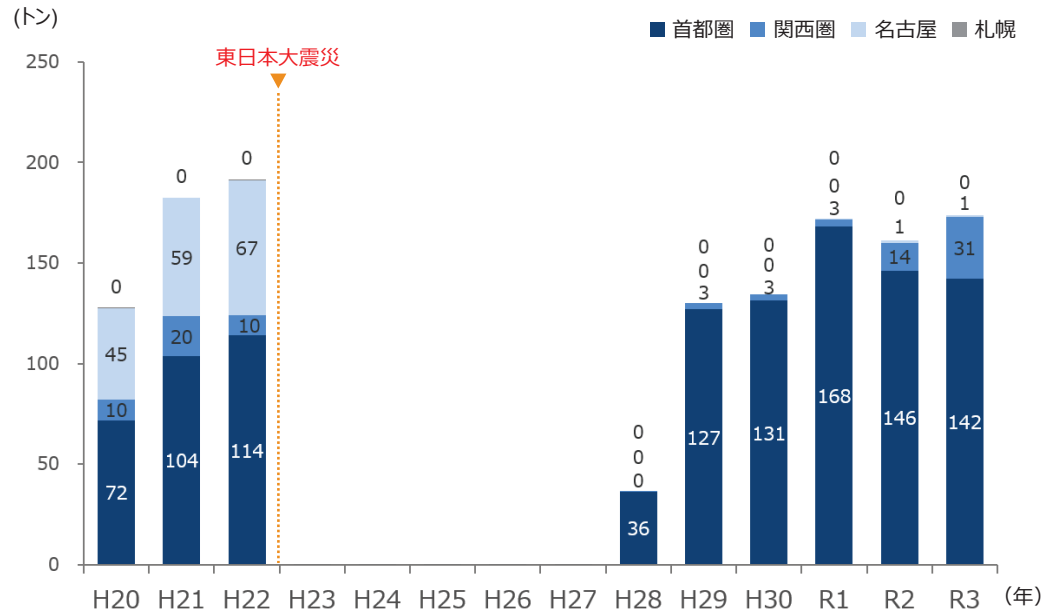


データ出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

各市場における福島県産ヒラメの取扱量の推移

主要４地域の各市場における福島県産ヒラメは、震災以前は首都圏・名古屋での取扱いが多かったが、平成28年に試験操業を開始してからは、名古屋での取扱いがほとんどなくなった。令和3年においては、首都圏での取扱量は震災以前の水準を上回っている。

各市場における福島県産ヒラメの取扱量の推移



※数値ラベルは、下から首都圏、関西圏、名古屋、札幌の取扱量を表す。

データ出所：各卸売市場の統計データ ※ ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

各市場におけるヒラメの産地リレー(令和3年産・首都圏)

東京都中央卸売市場では、4月～8月・10月～12月に福島県産ヒラメのシェアが3位以内であった。また、横浜市中央卸売市場では1月・５月・7月に福島県産ヒラメのシェアが１位であった。

各市場における産地リレー(令和3年産)

各月で市場シェア1位~3位の順に
■ ■ ■ で色付け

東京都中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	10%	13%	7%	14%	25%	15%	15%	13%	14%	18%	21%	27%	121
青森	16%	2%	2%	14%	29%	39%	26%	37%	25%	31%	32%	14%	166
千葉	10%	16%	50%	50%	18%	6%	5%	8%	3%	1%	4%	12%	113
宮城	3%	2%	1%	0%	9%	23%	27%	7%	4%	7%	12%	13%	78
北海道	16%	5%	1%	1%	3%	5%	11%	16%	24%	18%	12%	8%	62
総量	**44**	**46**	**65**	**59**	**76**	**98**	**74**	**24**	**32**	**47**	**82**	**76**	

横浜市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	20%	15%	7%	22%	34%	20%	23%	9%	10%	15%	23%	20%	21
千葉	10%	11%	53%	43%	19%	12%	12%	24%	9%	4%	6%	24%	22
青森	8%	1%	0%	2%	9%	26%	20%	11%	15%	34%	29%	15%	16
北海道	12%	10%	0%	1%	4%	6%	12%	8%	34%	24%	12%	1%	10
茨城	10%	7%	3%	1%	7%	3%	5%	3%	0%	1%	11%	18%	7
総量	**7**	**7**	**12**	**10**	**10**	**14**	**12**	**4**	**5**	**7**	**11**	**9**	

※福島県及び年間取扱量上位を表示。
※総量・合計の単位はトン。

データ出所：各卸売市場の統計データ

各市場におけるヒラメの産地リレー(令和3年産・関西圏)

大阪市中央卸売市場では、5月に福島県産ヒラメのシェアが3位であったが、他の月の取扱いはわずかであった。京都市中央卸売市場では、5月～7月に福島県産ヒラメのシェアが3位以内であったが、他の月の取扱いはわずかであった。

各市場における産地リレー(令和3年産)

各月で市場シェア1位~3位の順に
■ ■ ■ で色付け

大阪市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	1%	4%	9%	3%	6%	0%	1%	0%	0%	1%	15
韓国	43%	46%	33%	31%	26%	14%	23%	44%	48%	50%	45%	49%	212
鹿児島	15%	23%	15%	37%	29%	28%	10%	0%	0%	0%	9%	29%	106
長崎	17%	3%	2%	2%	0%	0%	18%	25%	24%	15%	11%	2%	54
大分	7%	8%	37%	5%	5%	5%	3%	17%	3%	0%	0%	1%	48
宮城	2%	1%	1%	0%	9%	26%	18%	2%	1%	1%	5%	6%	44
総量	**46**	**36**	**61**	**56**	**53**	**70**	**66**	**41**	**33**	**40**	**47**	**51**	

京都市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	2%	9%	23%	12%	13%	0%	0%	2%	4%	2%	16
宮城	17%	8%	8%	9%	24%	40%	43%	9%	1%	27%	37%	25%	58
香川	12%	8%	9%	10%	6%	3%	10%	37%	29%	19%	14%	13%	27
長崎	30%	37%	34%	17%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	4%	24
兵庫	9%	7%	10%	16%	9%	5%	7%	17%	12%	10%	9%	12%	23
北海道	8%	7%	0%	0%	2%	6%	12%	22%	36%	21%	13%	7%	21
総量	**19**	**18**	**19**	**20**	**24**	**33**	**20**	**7**	**7**	**15**	**26**	**33**	

※福島県及び年間取扱量上位を表示。
※総量・合計の単位はトン。

データ出所：各卸売市場の統計データ

各市場におけるヒラメの産地リレー(令和3年産・その他)

名古屋市中央卸売市場では、年間を通して、福島県産ヒラメの取扱いはわずかであった。札幌市中央卸売市場では、年間を通して、福島県産ヒラメの取扱いが見られなかった。

各市場における産地リレー(令和3年産)

各月で市場シェア1位~3位の順に■■■で色付け

名古屋市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1
宮城	10%	5%	3%	10%	24%	34%	45%	32%	26%	22%	35%	25%	164
愛知	19%	24%	13%	21%	17%	11%	12%	22%	29%	28%	15%	5%	117
兵庫	20%	18%	18%	18%	17%	10%	7%	9%	13%	11%	15%	38%	112
北海道	19%	2%	0%	3%	17%	23%	9%	0%	2%	1%	3%	2%	57
三重	9%	25%	15%	8%	5%	3%	4%	7%	2%	3%	3%	7%	51
総量	**57**	**47**	**58**	**60**	**76**	**90**	**76**	**41**	**32**	**44**	**55**	**63**	

札幌市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
北海道	93%	85%	55%	85%	98%	99%	99%	94%	96%	96%	96%	89%	288
愛媛	5%	6%	13%	5%	2%	1%	1%	6%	4%	4%	4%	11%	11
青森	2%	3%	15%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3
千葉	0%	0%	4%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1
福岡	0%	4%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1
総量	**18**	**17**	**8**	**19**	**38**	**68**	**46**	**14**	**20**	**18**	**17**	**23**	

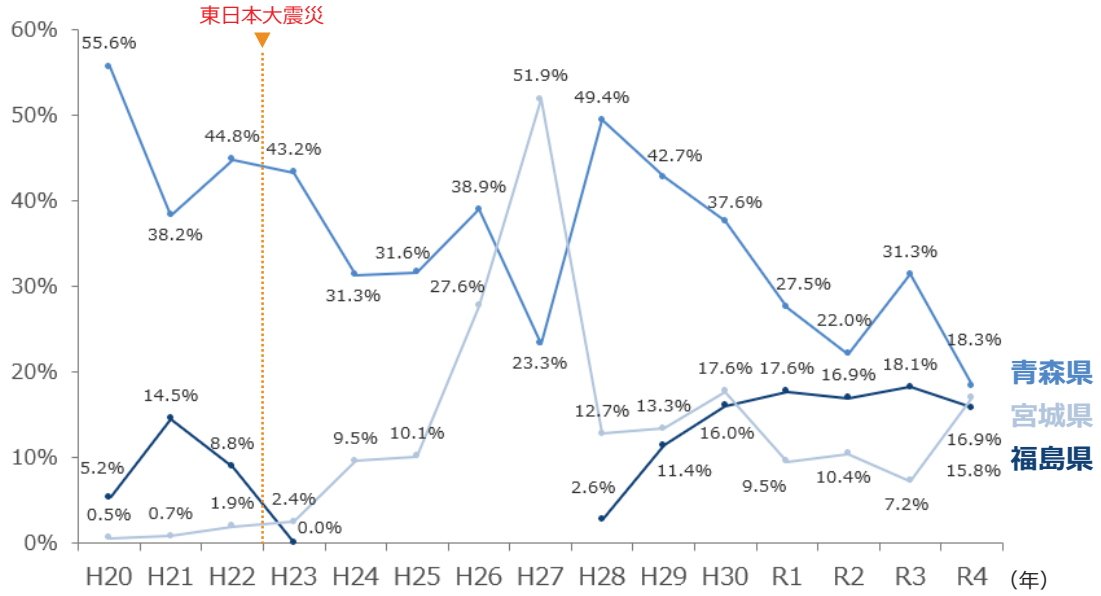
※福島県及び年間取扱量上位を表示。
※総量・合計の単位はトン。

データ出所：各卸売市場の統計データ

東京都中央卸売市場における福島県産ヒラメのシェアの推移

東京都中央卸売市場の10月の福島県産ヒラメのシェアは、平成28年の試験操業開始後拡大し、平成30年には平成21年のシェアを上回り、その後横ばいに推移している。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェア(10月)



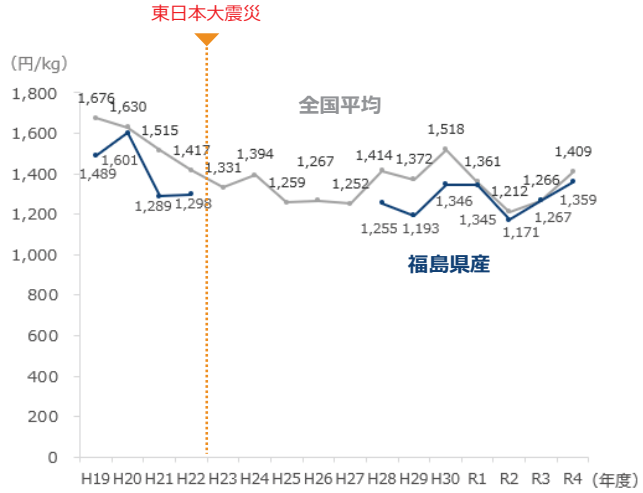
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」　※ ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

4. 価格形成の動向

福島県産ヒラメの価格回復概況（全国平均との価格差）

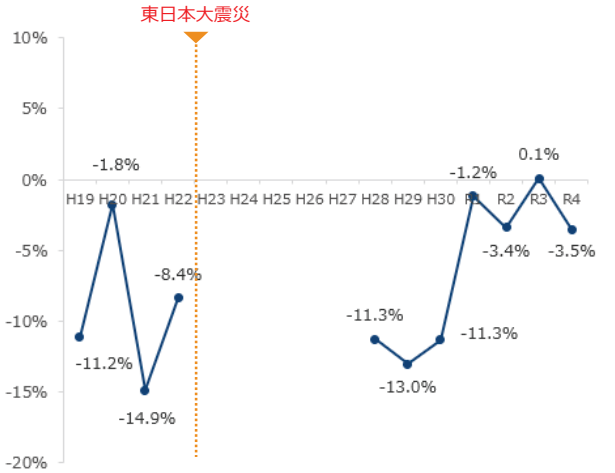
東京都中央卸売市場での福島県産ヒラメの平均単価は、平成28年度の出荷再開時には全国平均より１割程度低かった。令和元年度以降は全国平均が低下したこともあり、全国平均と同程度の平均単価となり、令和３年度は全国平均を上回ったが、令和4年度は再び下回った。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



※令和4年度は、令和4年12月までの実績を使用。

全国平均と福島県産の価格差の推移



※福島県産品と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産品が全国平均より１割安ければ-10%となる。

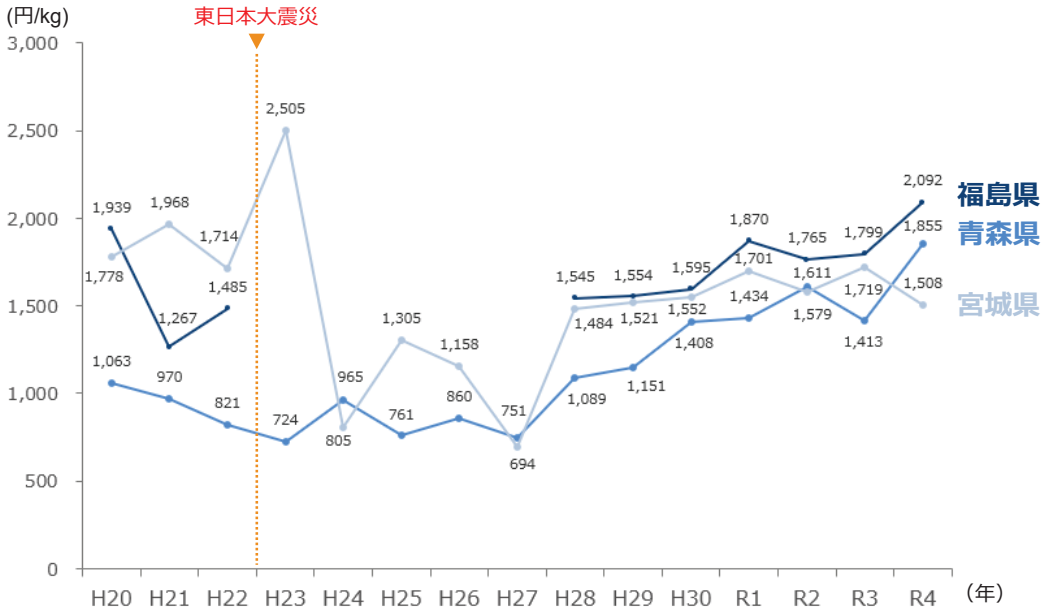
※ 東日本大震災前の平成21年度と22年度にも、全国平均と比べて福島県産品の価格は低かった。平成21年度と22年度は、20年度と比べて東京都中央卸売市場における福島県産品の出荷が多く、シェアも高かった。
※ ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

東京都中央卸売市場における福島県産ヒラメの価格の推移

東京都中央卸売市場の10月の福島県産ヒラメの平均単価について、平成22年は宮城県産の平均単価の方が高かったが、試験操業が開始した平成28年以降は、宮城県産より平均単価が高くなっている。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産の平均単価(10月)



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」　※ ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

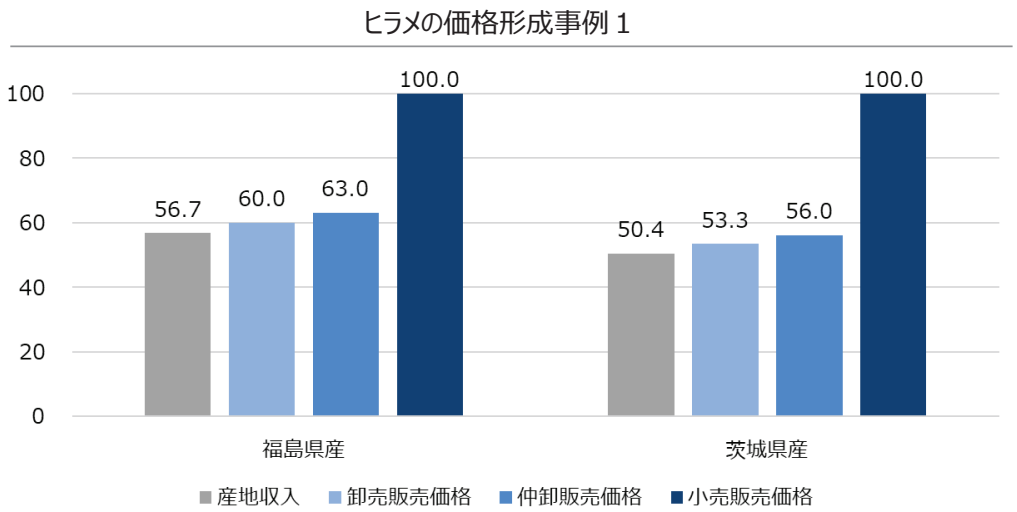
価格形成に関する事例調査(追跡調査)　の概要

価格形成に関する事例調査(追跡調査)を行い、福島県産ヒラメの価格形成に関する分析を実施した。

	概要
概要・目的	• 取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る情報を収集し、価格形成の実態を把握する。 • 他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。
対象商品	• 小売業で丸魚、切り身または刺身として販売されたヒラメ。
対象期間	• 期間：令和５年１月～令和５年２月
調査ルート	• 首都圏の小売業へ流通するルート：１ルート。 ➢ このルートでは競合産地産の価格も収集。 • 福島県内の小売業へ流通するルート：２ルート。 ➢ うち１ルートは競合産地産の価格も収集。

ヒラメの価格形成事例１

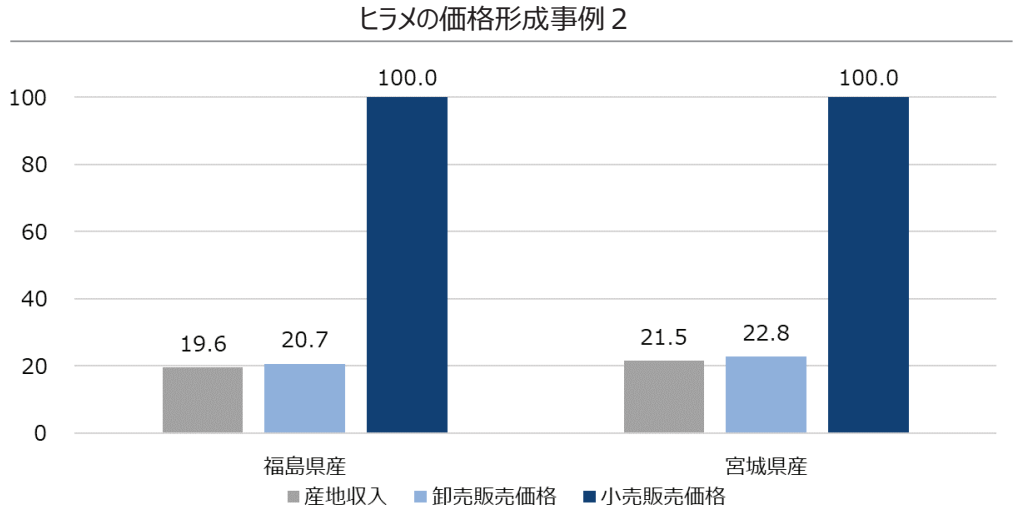
- 福島県内の鮮魚チェーン店の事例。
  - 福島県産と茨城県産の価格形成を比較すると、小売価格に対する産地収入の比率は茨城県産よりも福島県産の方が高いものの、大きな差異は見られなかった。
  - 小売販売価格は、概ね小売粗利率が35～45%となるよう設定されていた。



※数値は小売販売価格を100とした指数。
※産地収入とは漁港の出荷業者の販売価格のことを指す。

ヒラメの価格形成事例２

- 首都圏を中心に全国展開している鮮魚チェーン店の事例。
  - 福島県産と宮城県産の価格形成を比較すると、小売価格に対する産地収入の比率に大きな差異は見られなかった。
  - 刺身用に加工していることで、小売業者のマージンは大きく設定されていた。
    - 産地収入は、卸売販売価格から委託手数料5.5%を差し引いた金額であった。

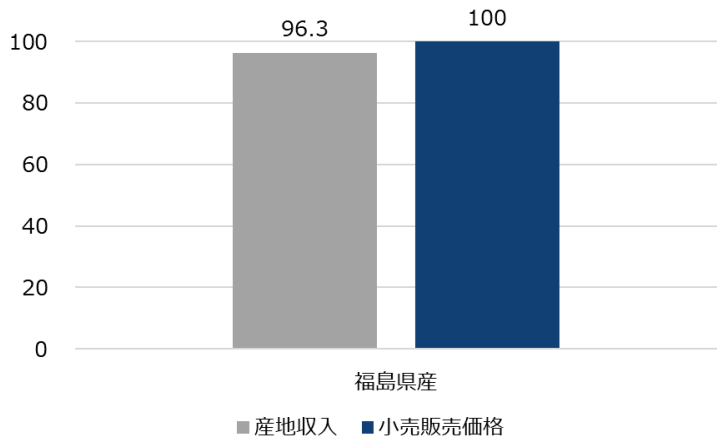


※数値は小売販売価格を100とした指数。
※産地収入とは漁港の出荷業者の販売価格のことを指す。

ヒラメの価格形成事例３

- 福島県内において、地元の漁港からヒラメを仕入れている鮮魚店の事例。
  - 調査時は、ヒラメの仕入が少ない時期であり、小売業者の仕入価格が上がっていた時期であった。小売業者は仕入価格が変動しても販売価格を大きくは変えないため、小売販売価格に対する産地収入の比率が高くなっている。

ヒラメの価格形成事例３



※数値は小売販売価格を100とした指数。
※産地収入とは漁港の出荷業者の販売価格のことを指す。

ヒラメの価格形成事例分析のまとめ

調査をした福島県内の小売業者では、競合産地との明確な価格形成の違いは確認できなかった。

- 福島県内の小売業者の事例では、以下の方針で価格を決めていた。
  - 小売販売価格は一定の小売粗利率となるように設定されていた。
  - 複数の産地を扱う場合、値付けの方法は産地を問わず共通していた。

- 福島県内の小売業者に至る事例で、価格形成に競合産地との明確な違いは見られなかった。

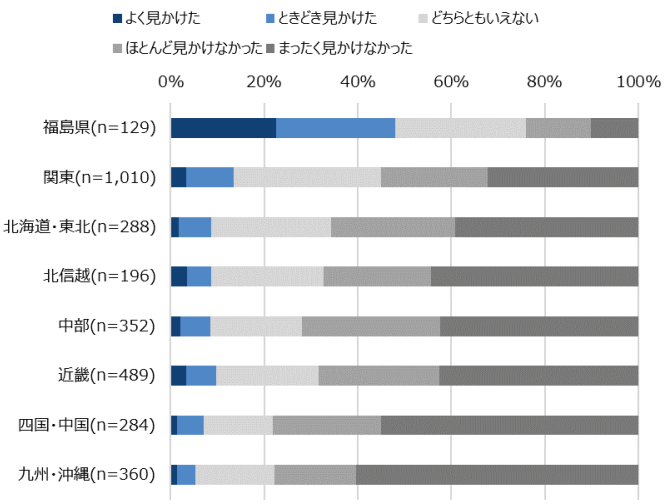
- 首都圏に展開している小売業者の事例では、刺身向け等の加工を施すため、小売マージンが高く設定されていた。
  - ただし、競合産地との間で、小売マージンに目立った差はなかった。

5. 福島県産品に対する認識

福島県産ヒラメを見た経験と購買経験（消費者アンケート）

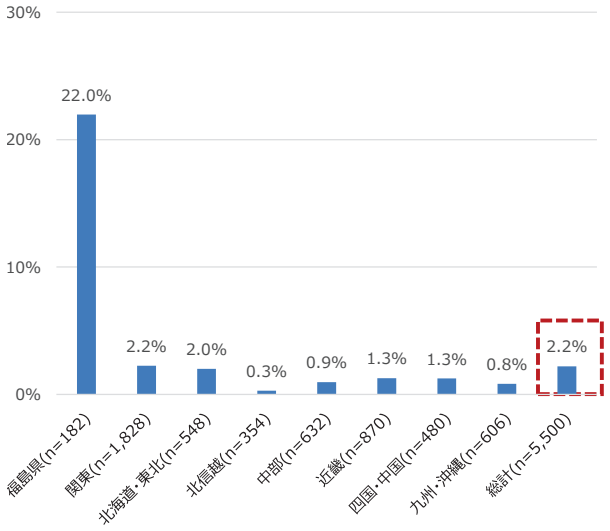
福島県産ヒラメを店頭でよく見かけた人の割合は、福島県が高く、他の地域では５%に満たない。福島県産ヒラメを買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では2.2%であった。

福島県産ヒラメを店頭で見たか



※過去1～2年に、店頭で福島県産ヒラメを見た記憶を尋ねた。
※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

福島県産ヒラメの購買経験率

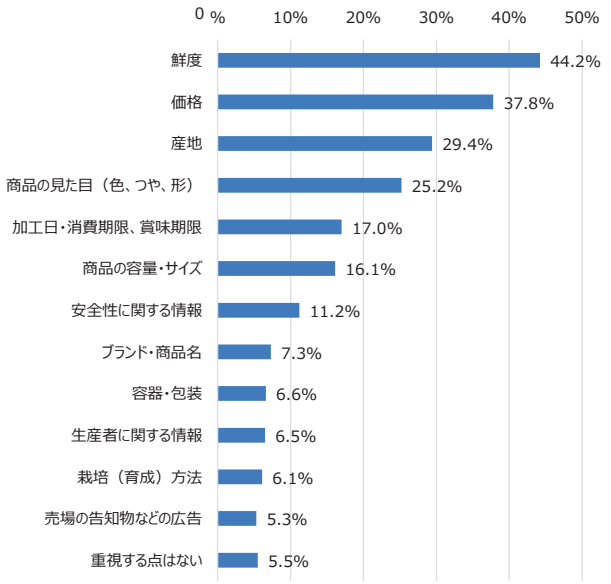


※購買経験率＝1度でも購買したことがある人数／回答者数
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていれば購買経験なしとなる。

ヒラメ購買時の重視点と購買者の評価（消費者アンケート）

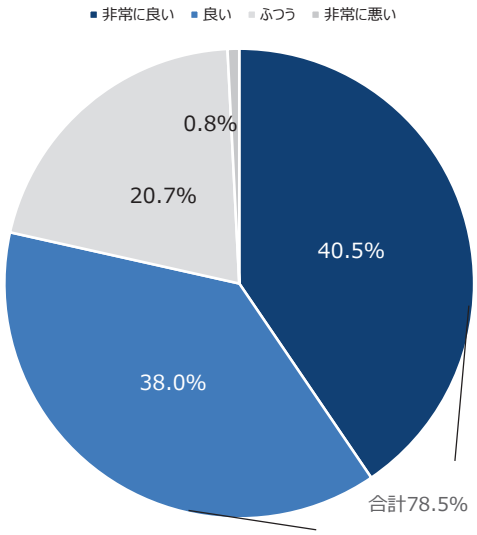
福島県産に限らずヒラメ購買時の重視点を尋ねたところ、「鮮度」と「価格」が上位にあがり、次いで「産地」と「商品の見た目」があがった。福島県産ヒラメの購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が78.5%であった。

ヒラメ購買時の重視点（n=1,148、複数回答）



※ヒラメ購買時の重視点は、福島県産に限らない質問。
※月に1回以上ヒラメを購買している回答者のみに尋ねた質問。

福島県産ヒラメ購買者の評価（n=121）



※福島県産ヒラメを買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。